

○阿武靖彦(-)

【宇宙膨張論の決定的な反証明】

「無から有は生じない」これで十分である。

もしも自然現象として、宇宙誕生に近似した現象が幾つか有っても、極めて初期に重力崩壊した筈。

【ハッブルさんが「宇宙は膨張している」と言った事はない】

1929年ハッブル博士は「赤方偏移率は光源までの距離に比例している」と発表した。赤方偏移はドップラー効果によるものと決めつけて、宇宙膨張論をでっち上げたのは世間である。今だに証明が無い。発見者はいない。

【現在の宇宙モデルの他の問題点(1)：膨張する静止系と慣性の法則】

空間上の全ての静止点において、静止点相互の間隔が膨張している。これは静止系ではない。

この擬似静止系において、慣性の法則が成立する筈はない。

【現在の宇宙モデルの他の問題点(2)：宇宙表面の状況と、宇宙中心からの離隔速度】

宇宙表面が宇宙中心から離隔する速度は光速と言うが、測定した人はいない。宇宙表面を見た人もいない。

離隔速度が光速で、超光速が存在しないものならば、宇宙表面は、行き場を失った天体・光が集積する筈。

【今後の課題】

現在信じられている宇宙モデル・宇宙生成過程は余りにも非理論的である。早急に破棄すべきである。

新たな宇宙論構築の為、情報・理論を交流する場を設けて戴きたい。